

# 採卵鶏

## 畜舎構造・環境

日常の飼養管理や鶏の観察を行い易い構造にするとともに、適切な排せつ物処理が可能な構造にする必要がある。

### ①ケージ方式

- ・簡単に清掃・消毒ができ、交換が容易な材料を用いること。
- ・ケージを積み重ねて鶏を飼養する場合は、上段の鶏の排せつ物が下段の鶏の上に落ちないように配慮する。
- ・床は、スラット床とすることにより、鶏の生活域から排せつ物の分離を迅速化・効率化し、乾いた状態を保つこと。

### ②平飼い形式

- ・簡単に清掃及び消毒ができること。
- ・良好な飼養環境を維持するために、床には敷料を使用することが推奨されるが、その場合は、適切に水分等を維持・管理する必要がある。

④換気設備等の空気を排出する箇所では、悪臭対策を講じること。

⑤畜舎や堆肥舎等の建物は敷地境界から3 m以上の空地を設けること（畜舎と畜舎の間隔も3 m以上の空地を設けること）。

⑥敷地境界には植栽（ニオイヒバ等）をするなど、環境美化に努めること。

⑦堆肥舎を設置する場合は、「堆肥化施設設計マニュアル」（中央畜産会、2000）、「家畜ふん尿処理施設の設計・審査技術」（畜産環境整備機構、2004）等を参考に十分な計算をして余裕のある容量を確保すること。

## 飼養スペース

必要な飼養スペースは、飼養される鶏の品種（系統）や鶏舎の構造、換気の状態、ケージのタイプ、鶏群の大きさ等によって変動する。そのため、適切な水準について一律に言及することは難しいが、死亡率を調べた海外の知見等から鶏1羽当たり $0.43\text{m}^2\sim 0.55\text{m}^2$ （ $430\sim 555\text{cm}^2$ ）を目安とする。

## 鶏舎等の清掃・消毒

鶏にとって快適な環境を提供することは、病気の発生予防にもつながることから、建物、器具等、鶏と接触する部分については洗浄及び消毒を行うこととする。また、鶏舎に鶏がいる間は、施設及び設備を清潔に保つこととする。さらに、オールイン・オールアウトを行う場合は、新しい群の導入前に洗浄、消毒及び乾燥を行うこととする。排せつ物は、適切に取り除き、鶏にとって快適な環境を提供することとする。また、清掃に伴う排水についても適切に処理し、河川や地下水を汚染しないよう留意することとする。

## 設備の点検管理

換気、給餌・給水、除ふん等の自動化機器設備の故障は、鶏の健康や飼養環境に悪影響を及ぼすため、適切に維持し、管理する必要がある。換気等の設備が正常に作動しているかどうかを少なくとも1日1回は点検することとする。